余土中学校構内遺跡

発掘調査場所：松山市保免西四丁目820番1の一部
発掘調査面積：200㎡
現場作業期間：平成27年3月16日（月）～同年4月17日（金）

1.遺跡の立地・環境

調査地は、松山平野西側の重信川河口から約4km上流の右岸に立地します。

調査地周辺は旧重信川の氾濫原と考えられ、これまでに近辺での遺跡の存在は知られていませんでしたが、平成25年に発掘調査を行った西方約900mの外環状線の道路建設に伴う余戸払川遺跡の調査で、弥生時代後期の墓域と中世の集落が見つかり、多数の遺物が出土しました。

2.今回の調査で検出した遺構

地表面下約2m付近で、弥生時代前期から弥生時代後期の遺構を検出しました。

・溝5条　・土坑15基　・柱穴42基

3.出土した遺物

弥生土器（甕・壺・支脚）：弥生時代前期～後期
石　器　（石斧）：弥生時代
石　材：サヌカイト（香川県産）、緑色片岩（砥部川産）

4.わかったこと

今回の調査において、遺構検出面の上には弥生土器が出土する遺物包含層が調査区全域に20～30cmの厚さで堆積していることが分かりました。この遺物包含層の下から遺構が調査区全域に見つかり、弥生時代前期から後期にかけての集落が存在していたことが分かりました。

溝は調査区の地形がやや低い南側に集中して東西方向に延びていました。なかでもSD1は、小規模な溝ですが、弥生土器に混じり、石器の未成品が多数出土しており、集落内で石器製作が行われていた可能性が考えられます。

この集落は、遺構の密度や地形などから範囲はさらに北側へ広がるものと想定されます。

写真1　遺構検出状況（南西より）

写真2　調査風景（北より）

写真3　溝1遺物出土状況（南より）

写真4　溝3遺物出土状況（南より）

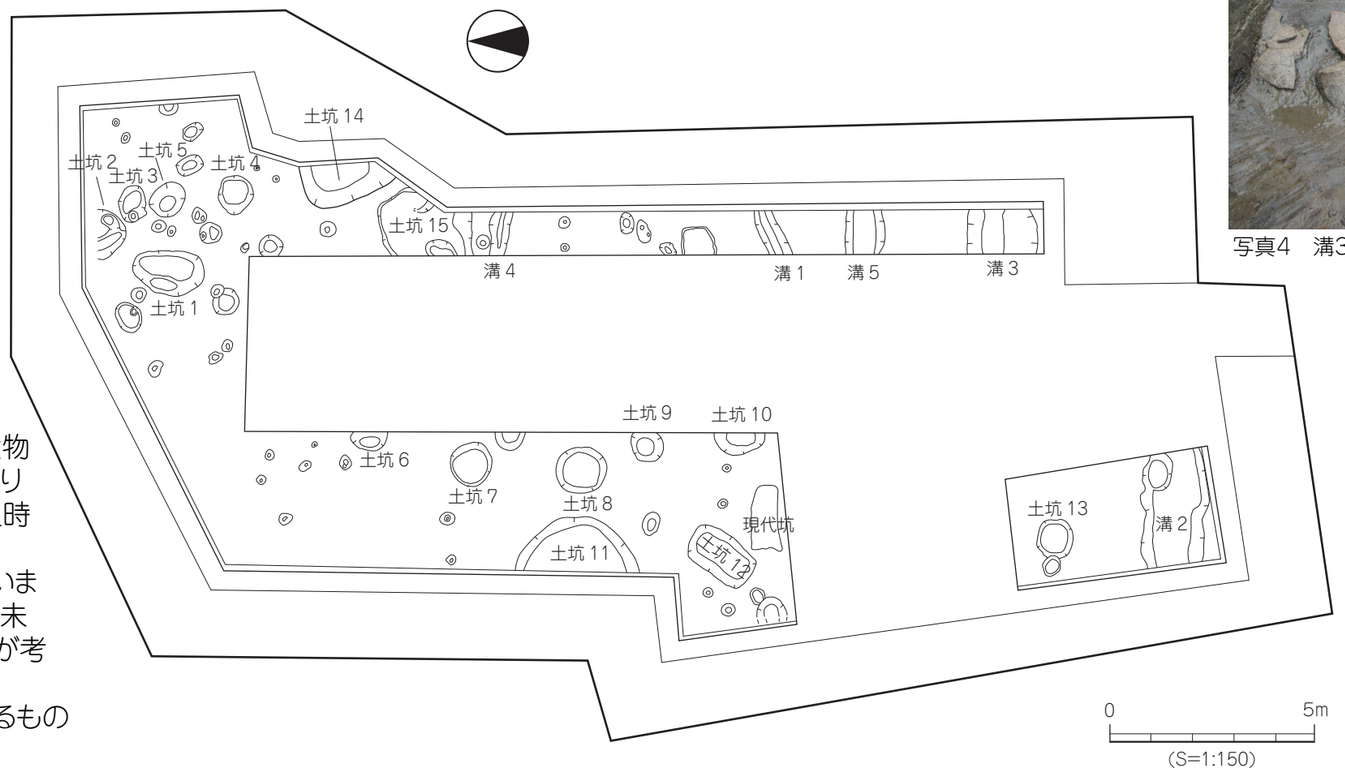

写真6　出土した遺物

写真5　遺構完掘状況（北東より）

〔用語解説〕
・遺構（いこう）　住居や溝・土坑などの不動産的な人々の活動の跡。
・遺物（いぶつ）　土器・石器など過去の人々が残した動産的なもの。
・遺跡（いせき）　遺構や遺物が見つかる場所。

＜遺構名称＞
・溝（みぞ）　水などを流す目的で、地面などを線状に掘ったもの。
・土坑（どこう）　ものを貯蔵する穴・ゴミ穴。
・柱穴（ちゅうけつ）　柱を建てるために掘られた穴。

＜遺物名称＞
・弥生土器　色調は赤褐色などで、摂氏600 ～ 900℃で焼かれた素焼きの土器で、弥生時代に使われた。
・石器　石を材料として、それを加工して製作した道具・利器・武器の総称。